

【八丁堀だより】



◎ 死別の分かちあいの集い(予約・参加費不要)：14時～16時

・伴侶：毎月**第一土曜日** (12/6、1/3、2/7、)

・自死：毎月**最終土曜日** (11/29、12/27、**1/30(金曜日に変更)**)

遅刻も早退も構いません。辛い寂しいお気持ちをお吐露してください。

超覚寺門徒でなくても参加できます。お知り合いにも是非ご案内ください。

◎ 浄土真宗基礎講座(兼 超覚寺女子会定例会)：14時～15時

毎月28日 (御開山 親鸞聖人の御命日) に開催しています。

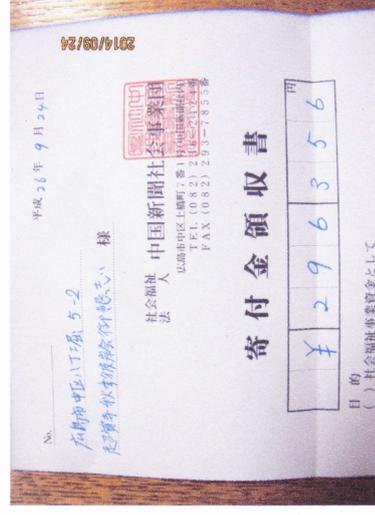
【11/28(金)はお休み】、12/28(日)、1/28(水)、2/28(土)

親鸞聖人が記された正信偈の講義や読経の練習をしております。法要前は、仏具のお磨きがあります。初めての方も遠慮せず、どうぞご参加ください。

◇ 報告・連絡・“僧”談

9/23の秋季彼岸会法要には43名がお参りされました。全員で読経し法話を聞いていただいた後、おぜんざいを召し上がっていただきました。そして、いよいよ桂文鹿師匠の落語。今回、「利き酒」・「鉄湯(くわがた・相撲噺)」・「LCC(格安旅客機)」の3本でした。特に2本目の古典落語は何とも切ないところがあって良かったです。なお今回の御布施 ¥296,356は全額、広島土砂災害の義援金とさせていただきます。ありがとうございました。超覚寺住職 和田隆恩

(*)人i~合掌



真宗大谷派(東本願寺)



林鷲山 超覚寺
憶西院

RIN-0H-ZAN OKU-ZEI-IN CHOJH-KAKU-JI
(since 仏暦2002, 西暦1619, 元和5)

〒730-0013 広島県広島市中区八丁堀 5-2

Tel : 082-221-1234 ; 090-9999-3113

Mail : wada@namuamidabutsu.com

HP : http://www.namuamidabutsu.com

超覚寺 秋・冬の法要のお知らせ

慈光のもと、平素は様々にお世話になっておりますこと、
ありがとうございます。

さて、下記の通り法要・法座を勤修いたしますので、
ご参詣くださいますよう、ご案内申し上げます。<(一)>

◎ 報恩講法要

- 11月15日(土)
10時～ 勤行・法話：住職
- 12時～ 御齋(おとき)
- 13時～ 市内住職 出仕勤行
- 14時～ 法話：広島市 徳栄寺住職 灘尾寛師

◎ 超覚寺門徒 2014年 総追弔会 兼 永代経法要

12月28日(日) 14時～14時30分 勤行・法話

今年最後の法要です。阿弥陀様やご先祖様に、この1年間に無事に過ごせたことを感謝すると共に、その仏徳を讃えます。

法要後は茶話会を開きますので、ご都合の良い方は、お互いの想いを共有いたしましう。有縁の方々はどうぞお参りください。

◎ 2015年修正会法要

1月1日(木・祝) 6時～、8時～、10時～、12時～、

1年の計は元旦にあり。「今年もお念仏の道を歩ませていただきます」と阿弥陀様にご挨拶申し上げます。住職が約10分ほどの勤行・法話を勤めます。お参りの際に、どうぞ本堂までお参りください。

◎ 12/18～20(木金土)の東本願寺お煤払い奉仕団

昨年と同様、東本願寺境内の同朋会館で二泊し、講義・座談・諸殿拝観などで過ごします。今回も東本願寺本堂の清掃奉仕がメインになります。

寒い時期ではありますが、この時期しかできない団体参拝です。総費用は御布施・食事・運賃込みで35,000円です。まだ参加者募集中ですので、関心のある方は是非ご連絡ください。

主なスケジュール予定

- ・12/18 8:37～10:15 新幹線 広島⇒京都
13:00～ 東本願寺諸殿拝観・清掃奉仕
- ・12/19 13:00～ 記念写真撮影・清掃(紙帳吊り見学)
- ・12/20 9:00～ お煤払い(終了後、入浴)
15:10～16:56 新幹線 京都⇒広島

◇ 2015(平成27)年の御法事をご確認ください。

- ・2014(平成26)年：1周忌 ・2013(平成25)年：3回忌
- ・2009(平成21)年：7回忌 ・2003(平成15)年：13回忌
- ・1999(平成11)年：17回忌 ・1991(平成3)年：25回忌
- ・1983(昭和58)年：33回忌 ・1966(昭和41)年：50回忌

お参りは、ご自宅でもお寺でも大丈夫です。希望日時をお早めにご連絡ください。念のため、境内通路脇の案内板に該当者名を掲示してあります。

◇ 寺院護持費(墓地管理費)について

寺院護持費のお支払いは、お墓参りの際に玄関までお越しください。期日も設けておりませんので、焦らなくても大丈夫です(何年も滞納されては困りますが…)。なかなかお墓参りできない方は、どうぞ下記宛にお振込みください。

【ゆうちょ銀行 15190-55770601】

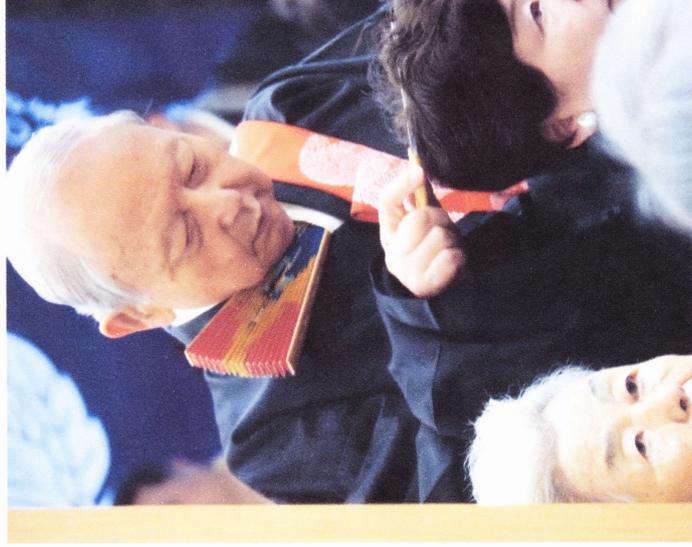
◇ “寺”後報告

① 10/2・3 東本願寺広島別院明信心院（広島市中区宝町4-16）落慶法要
本願寺第12代教如上人は、織田信長との石山合戦に徹底抗戦をとなえ、最後まで籠城していましたが、天正8年に信長の圧倒的武力に耐えきれず退城し、一時期、毛利氏を頼って広島に滞在していました。広島別院明信心院は、その滞在先のお寺が母体となったと伝えられます。その後、現在の地に1951(昭和26)年、日本堂・庫裏が再建され、広島県の教化推進・非核非戦の取り組みの拠点として、その役割を果たしてきました。しかし、60年以上の歳月が経ち老朽化が著しく、2008年に約1億円の建設費で新築することを決定いたしました。この建設工事については、6年もの年月を径て2014年1月に建物全体、4月末に内陣工事が終了し、5月24日に御本尊遷座式を迎えることが出来ました。これもひとえに御門徒様のご尽力によるものと深く感謝申し上げます。

また、10月2日に広島別院の落慶法要と帰敬式、翌3日には宗祖親鸞聖人750回御遠忌法要を厳修いたしました。

私たちの先達が、この広島の地に宗祖親鸞聖人の教えを広める拠点として建設いただいた篤い願いに思いを馳せつつ、この広島別院明信心院がこの地の教化の拠点、宗祖親鸞聖人のみ教えに出遇う場、開法の道場として開かれることを切に願ひ、尽力してまいりたいと存じます。

なお、超覚寺からは懇志300万円と屋根上の宝珠を寄付いたしました。



10月2日 剃刀なさる大谷暢顯御門首

広島別院明信心院での帰敬式で、超覚寺の御門徒5名が仏弟子になられました。各々で決めていただいた法名を受けられました。12月8日に超覚寺で帰敬式を受式される方々を含めると、生前法名を受けられた方が30名になりました。

感話【帰敬式に参列して 石原匡（釈慈匡）】

年初に超覚寺で行われた修正会に、初めて参詣させて頂きました。お参りした回は私一人でしたので、法要後ご住職と長らくの間お話をする機会が得られました。その際、ご住職から広島別院明信心院で行われる帰敬式参列へのお薦めがあり、常日頃よりご住職から生前に法名を受ける意義や受け方などについて拝聴していましたので、心を動かされ参列することに致しました。

帰敬式に先立って、落慶法要が行われました。私の席は前から2列目中央寄りでしたので、阿弥陀如来を囲む大勢の僧侶による声高らかな読経（仏説阿弥陀経は、語句が聞き取れない程の速読に驚きました）と、楽太鼓や笙・箏等による雅楽演奏（仏事にも雅楽演奏があるのを初めて知りました）の見事なコラボレーションに驚愕し、経験をしたことのない荘厳さに圧倒され、心が洗われました。

帰敬式では、東本願寺からご来広された大谷暢顯門首様から、参列者一人ひとりに直接お剃刀を受けさせて頂き、私も法名「釋慈匡」を拝受し、五環紋入りの略肩衣や勤行集・同C D等を拝領、感動致しました。

不信心者ですが、お釈迦様の仏弟子としての心を新たにして、精進したいと思えます。望んでも得られない今回のチャンスを与えて頂きましたご住職に、心からお礼を申し上げますと共に、これも御仏のお導きと感謝の念で一杯です。

現在の自分の名前(俗名)は、親が決めたものです。未だ法名を受けていらっしゃらない方は是非ご住職にご相談され、最も相応しいと思われる法名を生前にご自身でお決めになってはいかがでしょうか。東本願寺か超覚寺で生前法名を受けられることが、ご自身やご家族にとっても、安心できて喜ばしいことではないかと思えます。

☆ 「ありのまま」考 (愛知県豊田市 守網寺報“清風”より加筆転載)

先日、たまたま美輪明宏さんのラジオ番組を聞いていたら、こんなことを仰っていました。
「だいたい、今流行っている『ありのまままで』って歌。あれ、私、大っ嫌いです。ありのまままでって、例えばあなた、畑で抜いてきた大根を土が付いたまま卓に出しますか？ きちんと洗って土を落として、桂剥きとかきちんと料理をして、美しい器に盛って、『さあ、召し上がれ』って出すでしょう？ 『ありのまままで』って生きたままのことですよ。礼儀作法もマナーもあったもんじやない。ケダモノと一緒にですよ。それを全部そのまま受け入れてくれるって、図々しいにも程があります。私はあの歌は大っ嫌いです。」

今のように女装家やおねえキャラ等が一定の市民権を得ていない時代に、「化粧物」と世間から蔑まれながらあのスタイルを貫き通し、「ありのままの自分」を世間に受け入れさせるまで努力を続けてきた美輪さんの言葉だけに、なるほどと思いました。その後、テレビ番組で「アナと雪の女王」の英語の直訳の歌詞を見たら、驚くほど日本で歌われているのと違いました。美輪さんは、恐らくこの英語の歌詞をきちんと見ていたのだと思います。

「Let It Go」歌詞 対訳:沼崎敦子 ※日本語で「ありのままの」の部分から

かまわない それでいいのよ これ以上隠しておけない

かまわない それでいいのよ 背を向けてドアをバタンと閉めてしまおう

みんながなんと云おうと気にしない 嵐をもっと暴れ回らせてやる

どうせ私は寒さなんてまったく平気なんだから

面白いわよね ちよっと距離を置くと すべてがちっぽけに思えるなんて

かつて私を思いのままにした恐怖は 今やまったく手を出せずにいるのよ

今こそ自分に何ができるのか確かめてみなくちゃ 限界を調べて打ち破ってやるのよ

私には善悪なんて関係ないし 規則もいらぬ 私は自由なのよ！

善悪も規則もない自由は、本当に自由なのでしょうか？ 自由は制約を伴うものであるはず。「かまわない。それでいいの。気にしない。どうせ…」と、各々が開き直って自分勝手に自分のやりたいことをやる世界は、無秩序で悪意や恐怖に満ちたものになってしまふような気がします。善悪やルールもない自由では、野を駆け回る獣と一緒にです。子育てについて考えても、「子どもの自由を尊重する」、「見守る」という都合の良い言葉で、子どものやりたい放題を「ありのままの姿だから、これでいいの」と放任しては、社会的規範もマナーも礼儀作法も身につけていない獣(ケダモノ)を育てることになってしまうのではないのでしょうか。自由・権利は、義務を果たしてこそ成り立つものだと考えます。

☆ 【報恩講 (宗祖親鸞聖人御命日の法要)】

報恩詞は、親鸞聖人の御恩に報い奉らんとの思いでお勤めさせて頂きます。
親鸞聖人は60歳を過ぎた頃に、それまで多くの御同行とお念仏の喜びを分かち合ってきた今の茨城県を中心とする関東を離れ、京都に戻られました。それ以降、頻繁に関東の御同行にお手紙を送られています。83歳の時に自力と他力の違いについて明確に書かれたお手紙が残っています。

それには、「自力というのは、自分で何とかしようとする計らいの心を持って身口意を正し、立派に振舞って往生しようと思うものをいう。他力というのは阿弥陀如来の『必ず救う、われにまかせよ』という第十八の本願を、ふたごころなく深く信じて疑わないことをいう。『如来さまの計らいだから、こちらが計らうことは一切ない』と師の法然聖人も仰っておられる。」と記されています。

浄土真宗では法(み教え)を「聞く」ということを大事にしています。「きくといふは、本願をききて疑ふころなきを『聞』といふなり。またきといふは、信心をあらはず御のりなり」と聖人は申されます。今年も報恩講をご縁として、聖人のみ教えをお聴聞させて頂きましよう。左記の通り予定しておりますので、皆様お誘い合わせの上、ご参詣下さい。(大阪市 浄満寺報“浄満寺だより”より加筆転載)

◎ 超覚寺帰敬式 (ききょうしき) 12月8日(月) 13時～

帰敬式とは、仏さまの教えを大切に生きていくことを誓い正式な法名をいただく「お髪剃り」の儀式です。東本願寺だけでなく、超覚寺でも受式することができます。この度、家族が先に受式された方や合同墓への生前予約された方など、自分も受式したいという方のために帰敬式を執り行うことにしました。お釈迦様が悟りを開いた日と同じ日に執行します。受式を希望される方は、是非お早めにご連絡ください。自分で決めた法名で仏弟子になりましよう。